

インターバンクの声（2016年5月19日）

一昨日のアジア時間、今月初めに開催されたオーストラリア準備銀行(RBA)の議事要旨が発表され、暫く下落傾向にあった豪ドルが80ポイントほど反発する場面があった。ただ主要通貨であるユーロなどには大きな変化が見られず、ドル円も108円台中盤から109円台中盤での取引が続いた。多くの市場参加者が109円台後半ではドルの上値が重いと感じていたが、ニューヨーク市場の終盤近くに発表された先月の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録を見て久々に110円台を回復した。さすがに「大半の当局者が6月利上げの可能性を指摘した」との記述に反応せざるを得なかった。もっともいつもながら「6月の決定はデータ次第」と強調されているが、先週末の小売売上高や火曜日の消費者物価指数、住宅関連の内容も悪くなく、このまま堅調な指標の発表が続けば6月の利上げ観測が広がりそうだ。日本側にとっては、このまま相場が安定すれば麻生財務相が繰り返してきた為替介入の必要もなさそうだが、今度は介入なしで強くなってきたドルに対する米政府当局者の反応が気になる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。